

3	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	14104025	神経回路形成・再編成における CNR ファミリーの一の生体内機能の解析	八木 健 (大阪大学・大学院生命機能研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>神経回路の形成における特定分子群の役割について、異なった観点による多方面の研究がなされ、分子に対する生化学的な知見は増大した。中間評価によって指摘された問題点解決に向けての努力はなされ、研究目標も概ね達成されている。</p> <p>ただ、研究課題のもう一方の柱である再編成やノックアウトマウスによる解析が十分になされておらず、関連分野に対する生物学的な貢献度がやや高いに留まっている点が残念である。</p> <p>本研究課題は終了したが、当該領域における研究の進展に対する一層の努力が望まれる。</p>				
4	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15100007	発生と変性における細胞死による神経選択機構の分子遺伝学的基盤	三浦 正幸 (東京大学・大学院薬学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究代表者らは、ショウジョウバエを利用した遺伝子スクリーニングを駆使する手法により、細胞死機構について研究することを目的とし、これまでに着実な成果を積み重ねてきており、「細胞死を誘導しない低レベルのカスパーゼ活性が神経発生に果たす役割」という新しいパラダイムを創出したことは高く評価できる。</p> <p>この研究に欠かせない生体内カスパーゼ活性検出プローブ SCAT は、本研究グループが独自に開発したものである。SCAT が発生に関する研究全般に有用であることを含み、本研究により構築されたシステムの有用性、生産性は高い。中間評価では、「成熟神経の変性細胞死と、発生過程での選択的神経細胞死の研究がまだ統一されていない」と指摘されたが、その後、統一を図る努力がなされ、研究目的の達成度は概ね妥当と考えられる。</p>				